

開暮驚至秋深乃盡其花有紅黃紫三色結實三角內有子大如梧子黑而光澤其根與麥門冬相似最易繁衍

〔下學集〕下草萱草或說云忘憂草也

〔撮壤集〕中草萱草和名類聚忘憂草和名類聚萱注療愁草宜男草

〔書言字考節用集〕六生萱草又作藏草忘憂草本宜男草上療愁草鹿蔥上臯蘇指南萱萬

〔和爾雅〕七草萱草護草鹿蔥忘憂草宜男草蔥草菱草並同

〔倭訓栞〕前編四十二わすれぐさ 倭名鈔に萱草をよめりわする、草とよめるも同じ忘憂の漢

名に本づきたる名成べし今音をもてよべりひるなとも呼りおもふにもと美艸を見てうさを

忘る、意にや、泛く指る詞なるべし詩經の意も亦同じ一艸に限りたるは後世の事にや、藏玉集

に葦とも見え又紫苑をもよみ倭頼は櫻をもよめりといへり古き物語に塚墓の上に生る草の

名也ともいへり伊勢物語に、
つみもなき人をうけへばわすれぐさおのが上にぞ生といふなる大和物語に玄のぶ草同物

のよしいへるは伊勢物語に別物をわざとこしらへかまへていへるを取あやまれる成べし今

關東にて忘草といふは玄のぶに似たる小鳳尾草也續古今集に、

忘る、も忍ぶも同じふる里の軒端の草の名こそつらけれとあるは大和物語に据て誤を傳

ふるなり攝州住吉の社に忘草の神供あり御厨より獻す秘して人に傳へずといへり新後撰集

墨江の朝みつまほに御祓して戀わすれ草つみて歸らん

〔物類稱呼〕三草萱草くはんさう 信州にてとつてこうと云肥唐津にてくはんすと云、

〔宜禁本草〕五菜萱草 涼無毒治沙淋下水氣主酒疽根擣汁服之亦嫩苗煮服又主小便赤澀身體煩

熱利智膈